

# 地域貢献賞受賞に寄せて ～放射線治療かたろう会の野心的歩みと展望～

放射線治療かたろう会世話人代表 大阪府済生会野江病院

山本 鋭二郎

日本放射線腫瘍学会における地域貢献賞の受賞に際し、大変光栄に思っております。この荣誉ある受賞はこれまで活動してきた先人の方々や参加者のみなさまも含めたわれわれの努力と情熱が認められた証と受け止めております。

私たち放射線治療かたろう会は主に関西地域で放射線治療技術に従事する者を対象に、治療技術の研鑽や知識交換、関連団体との連携を通じて治療技術の向上と発展に貢献することを目的として活動しています。当会は1982年に始まり、2024年1月現在156回の開催を重ねてきた歴史ある会で、それぞれ志を持った多くのメンバーが熱い想いを繋ぎながら活動してきました。かたろう会以外にも初学者向けの座学や実機講習及び演習型勉強会の「わかば会」、先進的なテーマをもとに討論を重視した「システム研究分科会」を設け、参加者の幅広いニーズに応えてきました。さらに、最近では線量管理に関連するさまざまな情報発信を行っている「Dose management WG」やYouTubeで初学者向け治療計画の実践的教育動画配信を行っている「放射線治療計画教育用動画制作WG」などのWGを適宜立ち上げ、時勢を捉えた情報発信に努めています。私たちが提供するコンテンツの原点は時代の流れを読みつつ、参加者のニーズに応える

ことです。毎回アンケートを実施し、参加者のみなさまからご意見を頂戴し、会の企画運営及び講演プログラムに反映させることにより、現場に寄り添った実践的で泥臭い情報を提供できていると自負しております。

2020年のコロナ感染拡大後、オンサイト開催ができなくなりましたが、おそらくどの団体よりも先んじて同年8月にウェビナーでの開催に挑戦しました。この挑戦を成し得たのはひとえに会に携わるスタッフが学びの場を提供したいという熱意と参加者のニーズに応えるというわれわれの原点がすべてだったと思っています。現在では年4回開催している定例会においてはオンサイトとwebのハイブリッド開催に加え、オンデマンド配信も始めており、多様な情報発信を行うことで子育て世代の方や遠隔地の方にも学びの場を提供することができています。

今後も受賞に満足することなく、人と人、また学会等の組織と臨床現場を繋ぐ双方向のパイプラインとして、期待された役目を果たしていきたいと思っております。そして本邦において安全で質の高い放射線治療の提供のために情報発信及び治療技術者の交流の場としての機能をさらに拡張させて参りたいと思っております。



2023年度第4回世話人会にて